

# 12年前、原発はまっぴらごめんだと考えた



## 反戦・反核



# 78年前、もう戦争はこりごりだと思った

## 「自由と人権」は大軍拡に反対します

「自由と人権」は公民館登録団体です。基本的人権や市民的自由について考え、行動しています。  
原則的に第2土曜日午後、(主に東大和市立中央公民館で) 定例会を持っています。  
定例会の内容は自由です。関心のある方は直接おいでいただくか、下記までご連絡ください。

電話：090-1884-5757 (榎本) メール：[eno-takanosu1737@bbm-a.jp](mailto:eno-takanosu1737@bbm-a.jp)

ホームページ：<http://www.bbm-a.jp/~eno-takanosu1737/jiyu/index.htm> (QRコード参照)

自由と人権

liberty & human rights



## 戦争ごりごり、原発まっぴらごめん党宣言

78年前、わたしたちの前の世代の人たちは、生活の全面にわたる軍事統制と強制措置、軍国主義の日本による他国侵略を原因とする軍事侵攻と空爆を受け、多くのいのちを失い、生きのこった人たちも凄惨な生活を強いられました。1945年、敗戦による戦争終結によって、いのちの保障と自由を取り戻し、もう戦争はごりごりだと心の底から思ったと言います。

そして12年前、今度はわたしたち自身が、東日本大震災を引き金とした福島第一原発事故により、核被曝とその恐怖を味わうこととなりました。実際、膨大な数の人々が住み慣れたふるさとを追われ、原発事故関連死として亡くなった人も少なくはありません。避難生活は現在までも続き、放射線被曝の影響と不安は次世代までも引き継がれています。こんなことは二度と起こしてはならない、原発はまっぴらごめんだと、わたしたち自身が強く決意したものです。

ところが、戦争の終結から78年、原発事故からはわずか12年で、自身や先人たちの後悔と反省を忘れたかのごとく、この国の政策は逆行し、その速度をさらに高めようとしています。

ウクライナ戦争を口実として、他国攻撃を可能とするほどの大軍拡に手を染め、周辺諸国との緊張感をあおり、いまこの国は、明日戦争になってもおかしくないような状況です。集団的自衛権や他国攻撃能力は憲法違反の疑いが濃厚であると指摘されても、数の力でこれを押し切ってしまったのです。さらに国は、原発ゼロにむけて政策の転換をはかるところか、原発の最長運転期間の延長まで実施してしまいました。原発事故による被災からの回復も、避難先からの帰還や、損害賠償も完了せず、また、福島第一原発廃炉の見通しも立っていないにもかかわらずです。

わたしたちは、戦争によりいのちを奪われることも、いのちを奪うことも、拒否します。たとえ国が負けても、生き残るほうを選びます。不当な支配に対する抵抗は、生きていてこそできるのです。死んでしまっただけは何にもなりません。いのちがいちばん大事です。

仮に生活に不便があったとしても、原発なんかありません。核被曝の恐怖におびえるより、不便を選びます。あるのが当たり前になっているスマホやウォシュレットなんかなくても生きていけます。みんなが少しずつ不便を忍べば、原発なんかなくてもやっつけられるのです。ましてリニア新幹線など無用の長物、まっぴらごめん、電力浪費の犯罪的代物です。

原爆は世界から廃絶させなければなりません。原爆も原発も根っこは一緒です。原爆は原発以上にあってはならないものです。無いほうがみんな幸せになれます。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマ、自然災害ではありません。みんな人間がもたらしたものです。人間がなくせないはずはないのです。

(2023.3.11 自由と人権)